

田野地区 タウンミーティング開催報告

【日 時】 令和6年1月20日（土）19：00～20：30	
【場 所】 田野公民館	
【参加者】 地域：13人（田野地区連合自治会長など） 市：3人（市長、教育長、田野公民館長） 傍聴：4人	
【テーマ】 田野小学校の未来について（学校と地域が一体となった魅力づくり）	
概 要	
【テーマ説明】 田野地区のシンボルである田野小の児童数が数年後に激減と言われており、「統廃合もやむを得ない」という意見もあるが、学校がなくなると地域の過疎化が加速する。 小規模校であっても、今以上に田野地区の住民がまとまることで魅力ある学校づくりをして、他の地区に発信していきたい。	
参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
校区制度	
昔は田野小学校に通っていた地域が、今は丹原小や徳田小に通う地域となっている。 小学校の校区制度は必要なのか。また、どのように校区を決めているのか。	各学校の創設時から校区が設定されていると思われる。50年以上前の校区の詳細は不明だが、校区制度の変更は影響が大きいため、これまで見直しは行われていない。 校区指定基準の一つとして、徒歩や自転車での通学距離があり、「小学校で4km以内、中学で6km以内」が目安とされている。
禎瑞小に近い地域から、氷見小に自転車通学している子ども達を見かけるが、自転車通学を認めているのか。	新兵衛という地域は、旧西条市時代に氷見小校区に指定されている。保護者の心配の声もあると思うが、距離があるので自転車で通学している児童もいる。 自転車通学を認めている地域としては、玉津小も該当する。 校区の境界付近の地域は、道一本違えば通う小学校が異なるので、別の学校に行く方が近いのではないかという声もあるが、そういった声を全て受け入れると統制が取れなくなるので、現状を維持してきたことを理解いただきたい。
田滝小に通う子ども達はどのような扱いで通学しているのか。 現在、路線バス（関屋線）を利用して田滝小に通学していると思うが、路線廃止予定である令和7年以降は、保護者が連れていく必要があるのか。	田滝小の通学区域も「田滝全域」として校区が決まっている。 しかし、「校区外通学制度」として、身体的・家庭的・教育的・物理的な事情などの理由がある場合に、申請を受け教育委員会が校区外通学を認めるケースがある。 ただ、学校規模の適正化や適正配置を考えていく中で、「市内全域から通える学校」というのも一つのテーマになってくるとと思われる。
コミュニティ・スクール	
学校と地域が一体となった魅力づくりを進めていくにあたり、祭りなどの伝統芸能について授業でも取り扱ってもらえるとありがたい。	祭りの他にも、農業従事者による出前授業や課外授業などをコミュニティ・スクールの活動などで取り入れることができるのではないだろうか。 伝統文化的な行事を守るという目的で、協議し動き始めることが大切だと思う。
小学校では、今年度からコミュニティ・スクールを進めており、地域の方から指導を受けながら、踊りの活動を少しずつ取り入れている状況である。	人口減少が進む状況で、これからどうしていくかということを経験で話しておかなければ、守りたいものを守れなくなるという時に来ていると思う。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
学校規模適正化	
行政からの説明	
<p>▶学校規模適正化に関するアンケート調査について</p> <p>令和4年に、小学6年生の保護者と学校の教員を対象にアンケート調査を実施した。結果としては、1学年あたりの学級数について、「2学級が適切である」という回答が多く、1学級あたりの人数については、「21～25人が適切である」という回答が多かった。</p>	
<p>田野小の全校児童数が70人を下回りそうという状況で、将来的に田野小がどうなるのか心配である。</p> <p>丹原小は長寿命化対策を実施しているが、田野小や田滝小は今後実施予定なのか。</p> <p>先を見据えて対策を考えているのであれば、事前に方向性を示してほしい。</p>	<p>現在、学校の在り方について、庁内で横断的に検討している。令和6年度には審議会を設置し、協議を進めていき、答申をいただく予定。まずは情報を共有する。次に共感できるかどうかを判断し、その上で共創していくことが大切である。</p> <p>学校施設の長寿命化計画については、30年先まで使用することを見越して実施しているが、工事費が大きいと、全学校で実施することは、現実的になかなか難しい。学校の規模感や距離感をまとめながら対策を進めていく。地域の思いを無視することはできないが、最善策を検討しなければいけない。</p> <p>学校規模適正化により、仮に2つの学校を1つに統合するような場合は、子ども達の交通事故を防ぐためにもスクールバスを検討するが、合わせて、バスドライバーも確保する必要がある。</p> <p>共有、共感、共創につながるようにアプローチしていき、子どもたちの教育環境を整えていきたい。</p>
<p>小学校の価値を考えた時に、仮に小学校がなくなればその地域の高齢化を進めてしまう。</p> <p>複式学級を編成することで学校を維持することはできないのか。また、オンライン授業で対応できないのか。</p> <p>予算の都合で統廃合を検討する前に、学校を維持できる方法を考えるべきだと思う。その上で、維持が困難と判断した時に、初めて“統合”を考えればよい。</p> <p>田野小だけでなく、小学校を残す方法をみんなで作ることで、地域の結束力が強まる。</p> <p>小学校は、「地域の宝」であり、小学校がなくなれば、地域もなくなるといっても過言ではない。</p>	<p>高校再編は紋切り型のようなことが起こってはいけないと思う。</p> <p>「小学校の価値」は大切なキーワードとして受け止め、特徴のある学校も作っていきたい。利便性も図り、他の案もアプローチしていく。</p> <p>一方で、出身の地区ではなく、学校の規模が大きい街中の地域に家を建てる人がいることも事実である。</p> <p>また、各学校に配置される教員数について、以前は各学校にほぼ全教科の教員が揃っていたが、学級数に応じて決定するため、現在中学校では、自分の専門外の教科を教えている教員がいる状況である。教科によっては、複数校を掛け持ちしている教員もいる。</p> <p>小学校は、地域や文化の中心であることはもちろんだが、子ども達の教育に資するということを最大限に考えていかなければならない。</p> <p>コミュニティ・スクールもスタートしたので、今以上に地域の人々が学校に関わることで学校の現状を知っていただき、できる範囲でサポートをお願いしたい。</p> <p>進め方については、皆さんとの合意形成を図っていく必要があると思っている。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
その他	
休日夜間の急患の受け入れ	
<p>休日夜間急患センターで、小児を受け入れてもらえなかった。救急車は来てくれたが、市内に受け入れ可能な病院がなく、最終的には家族が自力で新居浜市内の病院に連れていった。</p>	<p>新居浜市は、西条市の病院より病床数が多く、規模も大きいので各分野の専門医も多い。市内における小児の急患対応については、休日夜間急患センターの当番医が、小児を診察できる先生であれば受診可能なので、受診前に事前に連絡してほしい。あるいは、愛媛県子ども医療電話相談（#8000）を利用してほしい。</p> <p>ただ、医師確保という根本的な解決には至っていないことも認識しており、現在、西条市内の2次救急病院間の連携に向けて話し合いがスタートしている。</p> <p>若い医師は、経験を積むため都会勤務を希望することが多い。また、リスクが大きいという理由で産科医や小児科医を敬遠する傾向があるので、こういった状況を踏まえながら、医師の確保について研究していきたい。</p>
丹原七夕まつり	
<p>丹原商店街で開催していた七夕まつりがなくなったのはなぜだろうか。もう少し地域を支援してほしい。</p>	<p>七夕まつりは、市職員総出で作業に従事することでなんとか継続して開催してきた。そこで、地域に協力を依頼して一度実施するも、やはり難しいという判断になった時に、若手が声を上げてくれて、「七夕夜市」と形を変えて現在も開催している。</p> <p>丹原小学校で1回実施した後は、丹原総合運動公園にて開催しており、昨年は約3,000人の来場があった。</p> <p>先輩達の協力も得ながら、時代の変化に合わせて運営しているので、応援してほしい。</p> <p>人口減で地域は小さくなるかもしれないが、活力は維持できると思うので、みんなで意見を出し合い、改善を加えながら、より良い方法を見つけていただきたい。</p>

<開催の様子>

